

令和 2 年度
学校自己評価報告書

令和 3 年 3 月

学校法人阿佐ヶ谷学園
阿佐ヶ谷美術専門学校

1. 学校の教育目標

本校の目的は、アートの教育を以って理想的真、善、美の世界を現実化することにある。そのプロセス、成果によって、社会及び世界に貢献しようとする。その為には精神の自由が必要であり、それは総合性によって得られ、また人間は自然の一員として、そこから学び、それらを通し成業を果たし、成就へと向かう。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

学科ごとの良質なカリキュラムの設定

(学校独自の理念を基軸に)

就職や仕事に結びつく効果的な授業

(学生と社会、それぞれのニーズのバランス)

学生の学びを応援できる充実した施設環境の整備

(リモート授業を活かせる環境の整備)

地域に密着した授業構成

(学生が社会に出るための架け橋)

学生生活における体調管理および保健指導

(新型コロナウイルス感染症等に対応する管理、保健指導)

社会環境に合わせた柔軟な対応

(社会の変化してゆく枠組みに対応)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、 やや不適切...2、 不適切...1
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
・ 学校における職業教育の特色は何か	3
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4

・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

1 課題

学校の目標とするとところと社会のニーズとの乖離が生じてきている部分がある。

2 今後の改善方策

企業との連携を模索し、企業内で授業を行ったりなど積極的な外部との交流を行ってゆく。

3 特記事項

(2). 学校運営

評価項目	適切...4、 ほぼ適切...3、 やや不適切...2、 不適切...1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	3
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

1 課題

情報共有の方法、情報共有システムについて検討の余地がある。

2 今後の改善方策

適正な部署の再整理、新規情報システムを検討してゆく。

3 特記事項

(3). 教育活動

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、 やや不適切...2、 不適切...1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3

・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	2
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

1 課題

今年度は特にコロナウイルスの影響もあり、外部との連携を図ることができなかった。

資格取得に関しては求められる事が少ない業種であるが、今後少しずつ検討してゆく必要がある。

2 今後の改善方策

産学協同の授業の設定や、教職員対象のオンラインセミナーなどの開催、参加を行う。

3 特記事項

(4). 学修成果

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、 やや不適切...2、 不適切...1
・ 就職率の向上が図られているか	3
・ 資格取得率の向上が図られているか	2
・ 退学率の低減が図られているか	3
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3

1 課題

全体的に就職活動の時期が遅くなる傾向にある。

2 今後の改善方策

今年度から1年時よりキャリア教育を実施開始した。更に就職に対する意識づけを行ってゆく。

取得できる資格の周知。

3 特記事項

(5). 学生支援

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	3
・ 保護者と適切に連携しているか	3
・ 卒業生への支援体制はあるか	3
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2

1 課題

オンライン授業が増えたため、実際の学生の生活状況、学習状況が見えにくくなった。

オンライン授業での精神的ストレスや、経済的環境変化による就学困難などの変化に対応する事が必要となってきた。

2 今後の改善方策

校医やカウンセラーとの連携も利用しながら、より迅速で適切なケアを行っていけるよう体制の活用を行ってゆく。

3 特記事項

(6). 教育環境

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
・ 防災に対する体制は整備されているか	3

1 課題

学生数が増加している事から、密を避ける設計が難しくなってきた現状がある。

防災訓練と備蓄品について

2 今後の改善方策

学校全体で教室構成の見直しが必要。常にオンライン授業を併用していくことを考え、入学希望者にも事前に伝えておく。

教職員向けの防災訓練の実施、災害時マニュアルの情報共有、備蓄品の補充

3 特記事項

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4

1 課題

各学科、コースの教育内容と広報活動との連携。留学生の応募要件の統一性に課題があった。

2 今後の改善方策

来年度のカリキュラムの方向性と方針を発表し、方針を共有する。

留学生の応募要件に関して教務、広報間で情報を共有する。

3 特記事項

(8). 財務

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	3

1 課題

2 今後の改善方策

3 特記事項

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、 やや不適切...2、不適切...1
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
・ 自己評価結果を公開しているか	4

1 課題

2 今後の改善方策

3 特記事項

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、 やや不適切...2、不適切...1
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

1 課題

今年度は新型コロナ感染予防の観点からほとんど地域活動の実施が不可能であった。

2 今後の改善方策

在宅勤務が奨励される中で、社会のニーズにも適応させてできる活動を検討していく。

3 特記事項

杉並区と同区の交流自治体である新潟県小千谷市、福島県南相馬市との連携事業の取り組みを継続して行なっている。

(11). 国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、 やや不適切...2、不適切...1
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

1 課題

留学生の在留管理、出席成績管理は、十分に配慮して行なっているが、オンラインでの対応で状況把握が難しい場面も多い。

2 今後の改善方策

より気軽に相談できるような体制づくりを心がけ、充実した学びの場として機能させていきたい。

3 特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価を毎年定期的かつ真摯に実施することは当然であるが、社会情勢（特に今年の新型コロナウイルス感染症の影響）と学校、教職員、学生の状況を速やかに把握し、具体的に各部門を数値化することによって、今後も分析しやすい状態をつくり次年度に繋げたい。

このデータの結果により、教職員の意識を高め、問題点をよく検討、対策を講じていく。新型コロナウイルス感染症が要因となり、業務の効率化に関してはかなりの成果がでている。

また教育内容だけでなく、本校の施設、設備、就職、学校生活全般にきめ細かい配慮をし、学生、保護者の理解が得られるよう周知していきたい。周知、広報手段も工夫をこらしたい。それが本校と社会、本校の教職員、本校と学生のより良い関係を生み出す素になる、と考えている。昨年の結果に引き続き、今回の自己評価でも、概ね一定の評価がある一方、組織の意思決定や人材配置のバランス、教員研修や資格取得、学生の課外活動に対する支援など、解決し切っていない課題は多いが、前回に比べると概ね良い評価の方へ動いていると感じる。

令和 2 年度
学校関係者評価報告書

令和 3 年 3 月

学校法人阿佐ヶ谷学園
阿佐ヶ谷美術専門学校

学校関係者評価（令和2年度自己評価に基づく）

開催日時：2021年3月13日 14:00

出席者：理事長 三輪孝光
 学校長 甲斐光省
 理事長付学校長補佐 三輪孝幸
 評議委員代表 鈴木清隆
 地域代表 檜垣紀六

学校関係者評価・意見

<項目1 理念>

産学協同の実施が無いことと、阿佐ヶ谷美術専門学校が行う場合の形態に対しての質問あり。協同で商品開発や研究などは、コロナの事もあり、行っていない事を説明。企業では現在、ディレクターが従来のデザインや手法をそのまま使って、番組を作ってしまうので、新しいデザイナーが出て来る余裕が無い。若い人が発言しにくい状況がある。ユーチューバーが流行っているが、作品が垂れ流し状態で世間も、長く保存しようという意識が薄くなってきている。コロナの状況が収まって落ち着きと経済的余裕が出て来る事を期待したい。

<項目2 学校運営>

運営方針や意思決定機能について、各部署の認識のズレが結果に出た。出来るだけ統一していく方向を目指してはいるが、コロナ対策で慌ただしく、急を要する決定が必要だった事もあり、2020年度は仕方ない部分もある。

<項目3 教育内容>

教職員対象のオンラインセミナーが、今後有効なものでは無いだろうか。

<項目4 学習効果>

資格取得数と本校の就職率は必ずしも比例するとは言えない。アートとデザインの学校なので、作品の質をまずあげていくべきではないか。作品がよくてもその企業の要望と合わないと成功はしないので、なかなか難しいが。履歴書の空白の部分を企業は見たいのであって、資格にこだわった方が良いのは一般職の場合である。履歴書の資格の欄のみにこだわるのは問題。

<項目5 学生支援>

コロナ対策は念入りにやっているのですが、まだ学生や教職員から感染者が出たとの報告はない。こまめな注意喚起の周知も成果がでていっているのでは。

<項目6 教育環境>

コロナの3密を避ける対策と近年の学生数増加の影響で、教室不足は深刻。5号館地下の書庫を教室としてリニューアルした事を報告。新年度はしのげるが、2022年はさらに厳しくなるのではと予想。

<項目7 学生募集について>

各学科、各コースの教育方針がリアルタイムに広報活動と繋がっておらず、タイムラグがあり、困るとの報告あり。編集用のシラバスデータを広報と共有する事で、ある程度緩和された事を報告。

<項目8 財務>

ホームページにアップされているので、情報公開としては問題ないのではないかと。

<項目9 法令の遵守>

問題なしという認識

<項目10 社会・地域貢献>

コロナの状況を鑑みつつ今後検討で良い。(学生の活動範囲を広げる事になるので)

<項目11 国際交流>

2020年度は留学生担当の専門スタッフがいたが、3月で退職するので新年度は不安がある。今後も、留学生の選考は厳しく、要綱も細かくして問題が起こらないように対応していく予定。

<全体を通して>

コロナが今後どういう状況になっても、阿佐ヶ谷美術専門学校は柔軟に対応しながら、授業内容重視で「質」にこだわりたい。専門教育、リベラルな教育をしっかりとやって、世界の今の問題(温暖化、外交など)も考慮できる人間をつくる。3年間だけの学びではなく、その先同窓会などとも協力しつつ社会人の学びも検討したい。1人の社会人として経営的なものもロジックだけでなく、「感性」をも生かしながら手法を見直して欲しい。若い人を、良いアンテナ(思考と学習)で導いて行きたい。